

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称				実施主体			
中区わんわんパトロール事業				中区役所自治推進課			
事業目的		事業内容		活動指標	R3	R4	R5
区民が安心して暮らすことのできる地域社会の実現をめざして、地域住民自らがパトロールグッズを携帯して犬の散歩を行うことで、防犯意識の向上および犯罪の抑止を図る。		飼い犬の狂犬病予防注射を行っている区民を対象に協力者を募集し、登録者にパトロールグッズを配布する。区民フェスタでの啓発活動、区役所のパネル展示、公園や動物病院等の利用者に対して広報活動を行い、登録者を増加させるとともに、登録の一定期間後にアンケートをとる。		新規登録件数	6件	3件	3件
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
◎	担い手不足が課題となっている地域での防犯活動に対して、区民の関心を集め、広く参加を呼びかける取組は地域だけでは難しく、行政としても取り組むべき部分である。	○	行政が事業の広報活動やグッズの用意等を行い、区民が飼い犬の散歩という日常の活動で大きな負担なく活動に取り組める環境を整えることで地域の防犯活動の活性化に繋がっており、区民と行政が協働で実施している事業である。	○	地域での防犯活動に時間的、意識的に参加しにくい層に対して、散歩をしながら防犯活動に参加する「ながら見守り」を提案することにより、区民の防犯活動への参加や防犯意識向上に寄与するものである。	○	他区や地域で類似の事業は実施しておらず、効率性が高い事業であり、事業の認知度を向上し、登録件数を増やすことで、より効果的に事業が行えると考ええる。
⑤自立発展性		総合評価					
△	個人として自主的に活動を行うという様態であるため、パトロール隊を組織するなどの展開は見込みにくい。	△	活動内容を可能な限り負担の少ないものとし、登録件数を増やすため、区役所でのパネル展示を実施し、公園・動物病院等の利用者に対して隊員募集チラシを配布する等広報活動を行った。活動内容そのものが犯罪発生率低下等の明確な成果に直結する性質のものではないが、地域防犯の担い手不足が課題となる中、より多くの個人が無理なく負担を分け合う「ながら防犯」の普及への入口と位置づけて、取り組んでいく。				
今後の方向性(課題、改善提案等)							
拡充 継続 見直し 廃止	・犬の散歩など日常生活の中で、防犯活動に取り組む「ながら防犯活動」については、無理なく活動に参加でき、防犯意識の向上を図ることができる有効な施策であるため、今後も登録件数の増加をめざす。 ・区民フェスタでの啓発活動や区役所のパネル展示、公園や動物病院等の利用者に対して広報活動を行い、登録者を増加させるとともに、登録の一定期間後にアンケートをとることにより防犯意識の向上を図る。						